

真実の歴史

JJ1SXA/池

以前、「靖国参拝」という記事を書きましたが、4月23日朝多くの国会議員が靖国神社に参拝したことを、各メディアはさも重大な誤りを犯したかのような報道をした、中国や韓国が強く反発するからというのが理由のようだ。

日本国民はむしろ靖国神社に詣でるべきであると考えるが、そのような見方は全く提示されない、今ある日本は誰の犠牲で存在するのだ。

戦火に散った人達、勿論疑問を持ちながらも止むを得ず戦争に参加した人もいるであろう、しかし純粹に国のため、愛する家族のためと命を捧げた人は多い、そういう人達を追悼するため参拝するのを非難するのは本末転倒だ。

いわゆる戦争犯罪人が合祀されていることを主因としているようだが、日本には、戦争犯罪人はいない、何故なら、昭和28年8月の第16国会で共産党を除く超党派で「亡くなった戦犯と言われる全ての人々は国家のために亡くなった法務死である」という決議をし、以来、日本には戦犯という言葉は消滅している(サンフランシスコ講和条約第11条第2項で、東京裁判を行った国の過半数の同意を得た場合は「戦犯」を赦免できることになっていて、国会で「戦犯」の免責を決議し、関係各国の了承をとっている)、未だに戦犯合祀が問題だとするメディアは何を考えているのだ。

年表を追って見ると、昭和28年8月、上記の国会決議で日本には戦犯という言葉が消滅したはず。

昭和50年11月21日に昭和天皇が最後の御親拝をされ、その後は詣でていない、それは、当時の社会党が突然、「問題だ」と言い出したのが原因で、天皇陛下は靖国参拝ができなくなった。

昭和53年10月17日、所謂A級戦犯とされた人達が合祀された。(翌年合祀発表)

昭和60年9月(合祀発表の6年後)、中国が靖国参拝に注文を付け始め、その後韓国が後を追ひ、国民は騒がなかったがマスコミが靖国参拝を騒ぐようになった。

しかし、一般的には、天皇の御親拝中止も、中国・韓国の靖国参拝反対も、全て合祀が原因と思われている、メディアの報道に誘導されている部分が多い、日付を追えば間違いに気付く。

日中、日韓条約には「内政不干涉」の条項があり、日本国独自の文化・宗教である靖国神社問題は内政問題である、中国・韓国が批判することの方がおかしい。

教科用図書検定規則(平成元年文部省令第20号)内に設けられた「近隣諸国条項」が、隣国の承諾が必要と捉えられ、内政干涉を受けているが、記者クラブ加盟各社の誤報が発端だ。

第2次安倍内閣において…改正教育基本法には「他国に敬意を払う」という趣旨の記述があり、本条項はその役割を終えた…として見直しを行なう事を決めている、

結構なことだ。

憲法問題についても、国際法規上、「被占領国の憲法及び教育を侵害してはならない」、にもかかわらず、現在の日本国憲法は占領軍が 1 週間で作り、その事実を連合軍は報道管制を敷き極秘にして日本国民には知らさなかった。

報道は正確に、重要なことは大々的に報道すべきであるが、重要なことを隠し、逆の意見に基づいた偏向報道で国民を騙している部分が多い。

第 1 回アジア・アフリカ会議、いわゆるバンドン会議に、外務大臣代理で出席した加瀬俊一外務相参与は、その時の模様を次のように語った。

…アフリカからもアジアの各国も「よく来てくれた」「日本のおかげだ」と大歓迎を受けた。日本があれだけの犠牲を払って戦わなかったら、我々は今もイギリスやフランス、オランダの植民地のままだった。

それにあの時出した「大東亜共同宣言」が良かった。大東亜戦争の目的を鮮明に打ち出してくれた。「アジア民族のための日本の勇戦とその意義を打ち出した大東亜共同宣言は歴史に輝く」と大変なもて方であった。…と。

この会議は、第二次世界大戦後に独立したインドのネルル首相、インドネシアのスカルノ大統領、中華人民共和国の周恩来首相、エジプトのナセル大統領が中心となって、1955 年にインドネシアのバンドンで第 1 回が開催された。

参加国の多くが第二次世界大戦後に、イギリスやフランス、アメリカやオランダなどの帝国主義を標榜する欧米諸国の植民地支配から独立したアジアとアフリカの 29 ヶ国である。

アジアの近隣諸国に謝罪すべきは謝罪するのは当然としても、このような評価があることを認識、誇りを持つべきだ、現在、馬鹿なことをほざいているのは、中国・韓国だけであり、それに迎合する日本の反日メディアは亡国の輩の集合体だ、情け無い。

隣国のような捏造歴史教育は言語道断だが、正しい歴史教育は絶対必要だ、余りにも知られざる歴史(知らされない歴史の事実)が多い。

国民の殆どが知らぬ間に締結された条約で、国益を損なう重大なものについては、再度、国民に問うことも必要であろうし、一部の日本人しか知らない真実の歴史は明確に国内外に伝えて欲しい、そして現在の歪曲された歴史観を排除すべきだ。

昭和 27 年 5 月 3 日の憲法記念日に、マッカーサー元帥が「日本が大東亜戦争に突入したのは自衛のためであった…(侵略が目的では無いの意)」と米議会で宣誓して証言しているが、日本国民の何割がこのことを知っているのだろうか？

それにしても、改めてマスコミの力は大きいと言うことを痛感する、最近では騙されてばかりから脱却した国民の方が多くなり、迷える子羊は少なくなったが、更にメディアの偏向報道には踊らされないように気をつけたいものです。

(26,Jun,2013 記)